ばってん

第　6　号
発行　長崎県公立学校事務長会
長崎東高等学校内
〒850-0007　長崎市立山5丁目13番1号
電話　095－826－5281　番
編集　広報活動委員会

人生のことば

副会長　橋村鴻志（佐世保西高等学校）

「ばってん」6号の執筆依頼があってから，さて何を書こうかと思案していましたが，先輩事務長さんの助言もあり，「事務長会報」にふさわしいものではありませんが，この頃思うことなどを記して，その責を果たしたいと思います。

今年の春の叙勲を受章された岸川博美先生の叙勲記念祝賀会を，佐世保西高校が世話役となって行いました。

岸川先生のお礼のことばの中に，先生が教壇に立たれた時から，座右の銘として，教育の指標と確信し生涯の糧となった，旅を愛した歌人若山牧水の歌

けふもまたこころの鉦（かね）を　うち鳴らし
うち鳴らしつつ　あくがれて行く

を，心の歌としてこれからも精進していきたいとありました。

これを読んで，一歌人の一つの歌がこれほど人の生涯を貫く歌になるものかと感銘を受けました。

私は，常々ことばとの出会いを大切にしたいと考えておりますが，最近読んだ本の中から，特に心に残ったことばを紹介します。

廣瀬誠著「藤沢周平。人生の極意」より

“人生に目的があるとしたら，「人間の器」を大きくすることにほかならない。そして，おそらく人生の意味の過半は，その「器」どうしが出会うこと，人との出会いを通じてお互いに影響を与え合うことにある。「器」どうしがふれ合ったとき互いに共鳴するためには，自らの「器」が小さ過ぎたり，欠けていたりしてはならない。「器」が粗末なら人とは出会えないのである。”

この本は，廣瀬氏の藤沢周平の作品を通しての藤沢周平論ですが，まだ40代前半の人が書いたものとは思えない，含蓄のあることばだと思いました。

この中に，人生における「日常に生かす行動原則7箇条」として

①一芸に秀でよ　②楽天家であれ　③品下ってはいけない　④骨惜しみするな　⑤逃げるも一計　⑥異色の友をもて　⑦異性に溺れない

と記してあって，これも私の印象に残りました。

諫早が生んだ詩人に伊東静雄という人がいます。彼の『夏花』と題する散文の中に，次のような記述がありました。

“人にはそれぞれ口には言い難い微妙な友情を感ずる「同時代の友」があって，その友情は，その人の後半生をも支配する力をもつものと思う……。そして「友ら去」った後に，各自は，自己流に「楽しみてさざめく」術を体得して，生きていくのであろうそして私も永生きをしたいと思う。”

これは，昭和15年詩作を通じて互いに影響を与えた，立原道造，中原中也等が世を去った後に書かれたもので，これを読んで，友人は本当に大事にしなければならないなと感じました。（伊東静雄は諫早を出てからその最後まで生活した大阪で，昭和28年3月，46歳の若さで他界しています。）

古い中国の『孟子』という本の中に「妖寿弐（ようじゅたが）わず身を修めて以てこれを俟（ま）つ，命を立つる所以なり」ということばがあります。

これは，短命でも長命でも，それは人間が勝手にするわけにはいかない寿命であり運命である。しかし，生きている間は身を修めてこれを待っておれ，という意味のことばだそうです。

この年齢になると，私も身近な人達や知人などの訃報に接することが多くなり，その度にこのことばを思い出しますが，心身共に健康であるように，自分自身できるだけの努力をして，これから毎日を過ごしていかなければならないと考えるこの頃です。

～第２１回九州地区公立学校事務長会から～

佐世保養護学校　小　峰　美　明

本年度インターハイが催される熊本市において，平成11年６月８日～10日の三日間の日程で開催されました。（本県も平成14年度にインターハイが開催されます。）研究発表は，大分県より『学校事故における基礎知識』，熊本県より『学校の活性化と事務長の役割―農業高校の学科改編に事務長としてどう関わってきたか―』の２題の発表がありました。研究協議は，大分・熊本県を除いた６県からそれぞれ研究課題の提案がありました。

研究発表の一つは「学校安全管理面の観点」から二つめは「教育改革（学科改編）の観点」からの事務長としての関わり方等を発表されました。

研究協議については，「地域社会と学校開放」「事務長の職務」「学科改編」「学校ゴミ・環境」の各問題についての研究課題が提案されました。

本県でも教育改革（総合学科制・単位制・特色のある学科）が進行中であり，「学校ゴミ問題」についても学校焼却が出来ない現状では，新たにゴミ量問題が考慮されてきている昨今であります。また，「事務長の職務」については，学校現場において日頃関わりながらの事務処理を行っていますが，「学校経営の一角をなす事務長」としての職務を再度認識し健全な学校経営を目指し研究を重ねて行くことが必要と痛感した。

特別講演は，『地方分権時代における学校事務のあり方について』と題して熊本県立大学総合管理学部石橋敏郎先生の講演があり，「地方活性化の基本はあくまでも人材育成である」。公務員も例外ではなく「役人」型公務員から「パブリックサービス」型公務員へ，「事務屋」のイメージから「政策屋」への脱皮を問われているとの観点から先生自身の体験談を基に，バリバリの熊本弁で約90分間の講演であった。我々事務長にとっても自問自答させられる講演内容であり，今後の職務に出来る限り取り入れていきたいと思った。

功労者表彰は11名で，本県では佐世保南高校松本事務長が表彰されました。おめでとうございました。表彰祝と松下事務長の研究協議発表壮行を兼ねて教育懇談会出席者で懇談会終了後，熊本市内で実施いたしました。出席の皆様お疲れさまでした。

なお，平成12年度は長崎市で開催されます。現在実行委員会が組織され各係で準備作業に着手したところです。

また，熊本県がインターハイ開催のため，例年９月に開催される「九州地区県立特殊教育諸学校事務長会研究協議会並びに総会」が，10日の午後から半日間の予定で開催されましたので併せて報告いたします。

～第２３回全国公立学校事務長会から～

長崎南商業高等学校　福　田　　実

本年の全国事務長会は，８月24日（火）に東京の国立教育会館虎ノ門ホールで開催された。出席者は，1100余名であった。開会式での会長あいさつは，中教審答申の教育改革の説明が主なものであったが，特に事務長として留意すべき点は，地方分権にもとずく，学校の責任の重大化，情報開示の促進，説明責任の重要性であるということであった。

来賓祝辞では，田沢元法相が20世紀の歴史から説き起こし，物の豊かさの実現が道徳の貧しさを招来したと強調された。また，バブル崩壊後，戦後最悪の経済状況にある我が国は，経済の国際大競争時代を迎え，才能と個性を伸ばす教育が緊急に求められているが社会の構成員相互が認めあうようになることも重要であり，そのためには，ゆとりのある教育も大切であり，その実現のために所要の環境整備が重要であるということであった。

ここでいう環境整備は，必ずしも物的なものだけではなく，人的なものも含むのであろうが，やはり施設・設備の改善整備が重要であろうと思う。全国校長会会長も，新しい学校の展開は，条件整備が重要であり，それは事務長の職務であり，その手腕に係っていると力説された。ただ，その職務の重要性に比して事務長の位置付が明確でないのが問題であると批判された。

文部省講話は，今国会で成立した地方分権一括法と昨年出された中教審答申の説明があった。まず，地方分権一括法についての説明の要点は次のとおり。

1　国と地方の役割分担を明確化し，住民の福祉の増進を図る。
2　機関委任事務を廃止し，自治事務と法定委託事務に分けた。
3　国の地方に対する関与を減少し，地方に対して権限の移譲を進める。

次に，中教審答申についての，説明の要点は以下のとおり。

1　国と地方の役割分担を明確にするという点は，地方分権一括法と同じ。
2　教育委員会制度のあり方を検討する。
3　学校の自主性・自律性の確保をどうするのか。
4　地域の教育力の向上を図る。

ただ，今回の改革の主旨は，国と地方の役割分担の明確化であって，教育委員会と学校の役割分担については，これからの課題であるということであった。

講演は，国立民俗歴史博物館館長　佐原真氏が「大昔と私たち」という演題で，軽妙な語り口のなかにも，蘊蓄に富んだ内容であった。

講演のなかで，特に感銘した言葉を挙げておきたい。

「人間は，前進を止めると過去に生きるようになる。」そして老化現象が始まる。

総会は一般的な形式のものであったが，本部副会長の発言を一つだけ，取り上げたい。「事務長の処遇改善は，事務長自身が努力しないと，誰もしてはくれない。」というものである。確かに，処遇改善に最も影響力があるはずの，文部省関係者がこれについて全く触れなかったことを思えば，意味深長な発言ではある。

最後になりましたが，功労者表彰で，佐世保南高校の松本事務長さんが，事務長会での永年の尽力に対して，表彰を受けられましたので，お知らせします。

随想
つばき

飲みニュケーションのすすめ

教育庁教職員課長　清田俊二

4月に教職員課長の拝命を受け，教育庁勤めも5カ月が過ぎました。

着任以来，小・中・高校の校長先生，教頭先生を対象に，多くの話をしてきました。立場上，しかつめらしい顔をして，厳しい話ばかりをしているので相当に疎まれているのではないかと思っています。その分，懇親会の席にはできるだけ顔を出し，歓談しながら現場の話をお聴きし，自分の思いも伝えるよう努めています。

そうした中で見えてきたものがたくさんあるのですが，学校現場でのコミュニケーション不足もその一つです。

昨今は，少子化の影響を受けて教職員の採用枠がどんどん小さくなり，受験倍率も高いものとなっています。(学校事務職も相当に高い倍率ですが。)

一方では，採用に当たって人物重視の方針の元，様々な試みが為されています。結果において，学力・人物ともに優秀な人が採用されているはずです。(その前の代の先生達がそうでないとは言っておりません。) 後は，学校現場での教育が最重要であり，新採の配置を受けた学校の校長先生以下，全教職員の責任は重いと言わざるを得ません。

ところが当の学校現場では，皆さん自分の仕事に忙しく，日頃から個々の子供達の事で話しあったり，自分たちの悩みを相談しあうこともほとんどないと聞いております。

即ち，先生達の多くは，自分が優越的立場にある児童・生徒，あるいは保護者を相手にしか話さないということで，これは怖いことだと思います。

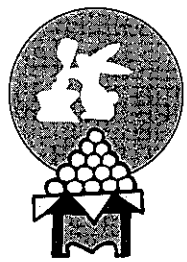
学校は世間から遊離して学校のみで存在しているわけではありません。教育の問題は国民的課題となっています。それなのに，教育のあるべき姿について，仲間内でさえ議論されない。本当にそれで良いのでしょうか。

私はおかしいと思います。もっと同僚と胸襟を開いて話をし，教育のあり方を論じ，地域の人ともつきあい，教職員への批判を聞き，保護者や住民が何を考え，学校に対し何を望んでいるのか知るべきだと思います。

そのためにはできるだけお酒を飲む機会は多い方が良い。居酒屋，立ち飲み屋で良いではないですか。校長先生も教頭先生も積極的に参加し，いや，むしろそういう機会をたくさん作る工夫をしていただき，無礼講の飲み会がいいなと思います。

当然，その日はノーカーデーで，地域経済の活性化に貢献し，環境保全に協力しつつ教育問題で談論風発。一石三鳥の良いアイデアと思われませんか。……懐具合が淋しくなるのが欠点ですが……。

ちなみに，私は，課員から「去年の課長は一年中仕事をしていたが，今年の課長は一年中飲んでいるのではないか。」という，するどい指摘を受けております。それはそれで反省しつつも，行政職，学校事務，義務の先生，県立の先生混在の当課の風通しを良くすべく，「飲みニュケーション」は続けたいと思っております。校長先生，教頭先生，事務長さん，一考いただければと思います。



編集後記

広報活動委員会のメンバーが2名交代，委員長・副委員長も女性へバトンタッチ。ついでに「ばってん」も装いも新たに「縦書き」から「横書き」へと大変身。(綴じる方向が違ってきて変になるけど悪しからずご了承ください。)
二面の「新入会員のプロフィール」の質問に“健康管理について”を加えてみました。

さて，○○の秋……。みなさんは，健康に関してどんなことに気をつけてお過ごしでしょうか。自分の健康管理について今一度考えてみてはいかがでしょう。職場においては，仕事の合間に疲れたなと感じたら疲れた部分をほぐす体操をするとか，目を休めるとか。愛煙家には適度の一服（＝一福）が気分転換に必要でしょう。

しかし，喫煙室が離れているとかの理由等で，ついついそのまま，事務室で一服（周りは立腹）……という職場があると聞いております。周囲にはアレルギーなどで悩んでいる人がいるかもしれませんので，ごめんどうでも喫煙室でお願いします。時には事務室と違うメンバーと一服するのも，自分のリフレッシュになるかもしれません。生意気なことを申し上げましたが，お互いに元気で，楽しく仕事をしたいものです。

“そう言う「ばってん」さぁー”と愛煙家としての意見があるかもしれませんね。この件に限らず，日頃感じていることや，趣味の話など，どしどし「ばってん」に投稿してください。また，第6号の読後感も合わせてお願いします。次の第7号（3月上旬発行予定）は，1999年最後の記念すべき「ばってん」，さぁーこのチャンスにぜひどうぞ……，原稿をお待ちしております。

＜文責　山戸＞